

平成 26 年産 紀南の梅産地情報

2014/07/16

「今年産の生育概況」

1. 今年の南高の開花は、1月末～2月にかけて気温が上がり、満開は2月11～12日と平年に比べ4・5日早くなった。

5月に入り適度な降雨があったものの、朝夕涼しい日が続いたため実肥り・生育共に遅れた。

出荷は、小梅は5月12日から、古城は5月15日、南高は5月28日から始まり、小梅・古城では生育遅れからの肥大不足、一部の園地で灰色カビ病やカメムシによる被害の発生、また小梅では収穫間際までの生理落果があり、生産量は思ったほど伸びなかった。

南高では、出荷に入るとカメムシの影響は少なくなり、5月下旬からの気温の上昇に伴い、生育遅れと実肥りの回復、また昨年の加工情勢の低下基調により青果での日々の入荷量は多くなった。

2. 生産量は、小梅・古城では前年・平年に比べ少なくなり、南高は平年並みとなった。

7/16日時点（生産見込量：トン）

品 種	26年産	25年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	816	1,170	944	70%	86%
古 城	759	1,009	938	75%	81%
南 高	24,292	30,057	23,421	81%	104%
在来系	557	728	674	77%	83%

3. JA紀南の安全・安心対策は、12年目に入り全出荷者の生産履歴の回収と安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析自主検査、適正農業規範(GAP)の点検を実施した。

「産地の課題と方向」

近年の予想を上回る気象変動が頻発する中で、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることは勿論のこと、南高梅に偏りすぎた経営から、梅に軸足を置いた複合経営への転換を積極的に進めることが重要課題となる。